

## 仏さまのはなし

## 郷音流

~ K O U R U ~

発行所

茨城東組事務局

茨城県常陸太田市

久米町20-1

正念寺内

## 意味と価値

清心寺副住職

増田 廣樹

物事には、意味という視点と価値という視点があるようです。例えば指輪を価値という視点で見ると、素材や値段を考えるでしょう。しかし、意味という視点で味わえば、夫婦の出会いや物語、繋がりといった所に思いを巡らす事が出来るのではないのでしょうか。そして、意味という視点で物事を味わう時、そこには値段などの価値が入り込む余地はありません。

以前、お孫さんを亡くされたお婆さんが次のように教えて下さいました。「お爺さんの時はね、布団の中で苦しまずに眠るように亡くなっていったのよ。それを言ったら、近所みんなが良い往生ね。と言ってね。けれど孫が亡くなった時は可哀想にね。と口々に言うの。お爺さんとあの子。私にとってはかけがえのない夫でありかけがえのない孫でした。比べる事などできません」と。

暫く聞いてみると、最後に「やっぱりお念仏しかないですね」と仰って下さいました。

さて、私もは比較の世界を生きております。それぞれの人生・いのちに価値を当てはめ長短・良し悪しを見ている。だからこそ、ご夫婦の物語、お孫さんとの思い出に目を向けることなく「良い往生、可哀想な往生」と言い、いのちの長短に心が奪われてゆくのでしょうか。

阿弥陀仏という仏さまは、すべてのいのちは、線引きなき世界に抱かれています。線引きなければ比較もない。阿弥陀仏は私のいのちを価値として見ることなく「そのままおいで」と仰って下さいます。

また、生き方、死に方を問わず、今のあなたを温めている親がここにいます。そして、南無阿弥陀仏と仕上がり、長短、良し悪しを超え、いのちの輝きを私に教えて下さっております。「お念仏しかありません」という言葉は、阿弥陀仏の願いに頷かされたお婆さんのお姿。また、同時に、お爺さん、お孫さん、



私のいのちの意味を照らして下さいる言葉と味わうことが出来るのではないのでしょうか。

合掌



## お寺紹介

第9回



〒311-0101 那珂市本米崎 2270



建長4(1252)年、親鸞聖人80歳のときの御消息(お手紙)に、明法房の往生の知らせを受けた聖人が「かへすがへすうれしく候ふ」とおよろこびになられ、ともに念仏者として往生浄土の仏縁に恵まれたことを、感慨深く記しておられます。当寺は、聖人から直接教えを受けた明法房によつて、承久3(1221)年、塔之尾檜原に開いた念仏道場に始まり、ます。天正5(1557)年に那珂市額田に移り、さらに天正11(1583)年に現在の那珂市本米崎に寺基を移しております。

寺伝によると、明法房は関白藤原忠通公の曾孫とされ、幼くして京都の聖護院宮に入門して播磨公弁円と称し、山伏として修験道をきわめたと伝えられています。常陸国金砂の城主・佐竹末賢公は、久慈西郡塔之尾(常陸大宮市東野)に護摩堂を建てて祈禱所とし、ここに弁円を迎えたいいます。やがて弁円は、常陸国の修験者の先達として尊崇を集めるようになったと伝えられています。

親鸞聖人が越後国によりお越しになり、稲田に草庵を結んだころより、念仏に帰依する人々が次第に増えてゆきました。伝承によると、弁円はそのことを妬み、聖人の常日頃の通り道であった板敷山で待ち伏せをして、その命を狙おうとしました。しかしうまくいかず、ついに刀と弓を持って稲田の草庵に出向いていくのです。ところが、聖人は慈愛のまなざしをもって暖かく出迎えたので、弁円はたちまち害心が失せ、悔い改めて弟子となりました。そのときに賜った名前が明法房であります。このときの様子が『御伝鈔』に伝えられています。今も弁円が真つ二つに折つたという弓と、修験時代に用いていたとされる法螺貝が上宮寺に伝わっています。



明法房の木像



本堂内の様子

後の人がこんな歌を詠んでいます。  
「弁円の真似する人は多けれど、  
明法房となる人ぞなし」  
私はこの歌を、念仏者としてこの世を生きることがいかに難きことか、わが身を通して聞かせていただいております。  
当寺では、毎月25日に法座を開いております。皆さまのご参詣をお待ちしております。ともに念仏の声を聞いてまいりましょう。

合掌

上宮寺門徒推進員 釋淳信(高畑淳)

## はじめての仏事

第9回

## 作法のいろは

浄妙寺副住職 那須 信行

Q & A  
～ 仏事の問い～

法話(仏さまのお話)をお聴聞したり拝読するなかで、よく聞いたり目にする専門用語(真宗用語)があるかと思えます。その用語をなんとなく理解している方、誤って捉えている方、そもそもよく分からない方がいらっしゃるでしょう。その為に法話が正しく伝わらない時があります。今回はそのような読者の方々、少しでも浄土真宗のみ教えを正しくいただくことができればと思います。よく使われる真宗用語をともに学ばせていただきます。

【ご本尊】ご本尊は宗教における最も大切な信仰、礼拝の対象(尊崇される仏さま)で、その対象を私たちが目に見えるように具現化されたものです。浄土真宗では阿弥陀如来のはたらきを具現化した木像、絵像、南無阿弥陀仏の六字名号がご本尊になります。偶像崇拜のように浄土真宗のご本尊は、何か神仏の魂が宿り拝めばご利益があるといったものではなく、阿弥陀如来のはたらきをそのお姿や名号を通して仰ぎ、我が身を省みる事を大切に致します。では、そのはたらきを「本願」という言葉を通して味わってみましょう。

【本願】阿弥陀如来が法蔵菩薩の時に、生きとし生けるものすべてのいのち(衆生)を救おうと誓った四十八の願。この四十八の願の力(はたらき、功德)を本願力といえます。浄土真宗では親鸞聖人が主著『教行信証』において、十八番目の願いを阿弥陀如来の根本の願として示されているお言葉を多く残されておりますので、

特に第十八願を大切にさせて頂いております。第十八願は、「衆生が信心(阿弥陀如来におまかせする心)を起し、わずかでも念仏すれば浄土へ生まれさせよう」といった願いと、「もしそれが叶わなかったらならば私はさとりをひらかない」という誓いによって仕上がっております。願いだけではなく誓いがあればこそ実行力があり、そこにはたらきと言われる所以があります。そして、その阿弥陀如来の願い、はたらきに疑う心無くしておまかせすることを「他力の信心」といいます。では最後に、その阿弥陀如来のお心が込められた六字名号を称える念仏について考えてみましょう。

【念仏】称名念仏のことで、阿弥陀如来の名号(南無阿弥陀仏)を称えることをいいます。浄土真宗における念仏とは、念仏を称える行為自体に功德(福德、果報)があるわけではありません。本願の段で示した通り、名号に阿弥陀如来の功德(はたらき)があり、その名号を信受(信心)して自然と名号を称える事が念仏であり、それは私の声を通して出るわけですが、あくまで阿弥陀如来の本願に対して称えるので、その称名は報恩の業であります。衆生を救おうと誓った蓮如上人が当時、門弟の要望に応えて教化の為に書かれたお手紙『御文章』の各文末に、「仏恩報謝の念仏を申すべき」という言葉が見られるのも「称名報恩」所以であります。

称名念仏



## お知らせ

# 中央教修のご案内

全国の朋とともに浄土真宗を学んでみませんか？

## 中央教修に参加し、門徒推進委員として

悲しみや苦しみ喜びの人生を多くの方々と、ともに歩んで下さい。

中央教修は浄土真宗のみ教を教わる事が目的ではなく、教えが、あなた自身の生活にいきている必要不可欠なものであることを実感し、生きる意欲を引き出す研修会です。全国の連研修了者が京都・西本願寺に集まり、様々な研修を行います。また、研修修了後は同期会などを通して近況を報告しあい、それぞれが内に抱えた悩みやよろこびをともに分かち合います。ぜひ全国の朋とともに学びを深め、お念仏に照らされた人生を歩ませていただきます。詳細はお手次のお寺さまにお尋ねください。

## 法とともに朋とともに、これからの人生歩んでみませんか？

やり直す事の出来ない人生を、見直してみませんか？

### 中央教修日程

第272回	2020(令和2)年	5月14日(木)～18日(月)
第273回	2020(令和2)年	7月9日(木)～13日(月)
第274回	2020(令和2)年	9月3日(木)～7日(月)
第275回	2020(令和2)年	10月5日(月)～9日(金)

※定員になり次第申込を締め切らせて頂きます。

## 茨城東組連続研修会のご案内

本年度2月6日、7日に行われた筑波山での連続研修会をもって第16期茨城東組連続研修会が終了いたしました。来年度以降の研修会については未定です。詳細が決まり次第各ご寺院を通して皆さまにお伝えすることになるかと思えます。それまでしばらくお待ちください。

### 編集後記

3月中旬花粉真っ盛りの時期となりました。花粉症の私にとってクシャミがとまらない辛い季節です。しかし花粉によってクシャミが出るように、阿弥陀さまの願いによってお念仏がでると味わうと、辛い花粉症が何だか少し有難く思えました。皆でつくりあげた茨城東組組報・響流。どうぞ一読下さい。

(浄光寺副住職 枝川唯也)